

和歌山病院内保育所で防犯訓練

刺股で必死の応戦



刺股で犯人役の署員に応戦する職員

美浜町和田の和歌山病院内くろしお保育所（鳴海潤子園長）で17日、不審者の侵入を想定した防犯訓練が行われ、万が一の事態に備えて対応能力を高めた。

御坊署員の扮する不審者が「知り合いの子おるんや」と敷地内に侵入。気づいた保育士が園児を避難させ、同時に病院へ応援を要請した。犯人役が模造のナイフを取り出し迫るなか、保育士は子どもたちがいる園舎内への侵入を防ぎ、駆けつけた職員らが刺股（さすまた）や熊手で本番ながら必死に応戦。到着した署員によって取り押えられた。

訓練終了後、鳴海園長は「本当に怖かったです。他の職員、警察の方が来られると

信じ、不審者を子どもたちに近づけないよう必死でした」と振り返り、生活安全刑事課の森山浩志課長は「皆さん真剣で連携がとれていて、素晴らしい訓練でした」と講評。刺股の使い方についての指導もあった。